

令和6年度の教育活動等に対する学校評価書

1. 教育目標 自立性のある子供 元気にあそべる子

2. 本年度の重点目標 (学校評価の具体的な目標や計画)

未就園の保護者と子供が来園する機会を増やし、地域との関りを深める。

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

<※評価点はA(十分に成果があった)・B(成果があった)・C(少し成果があった)・D(成果がなかった)>

	自己評価		学校関係者評価委員会	
評価項目	評価点	幼稚園としての反省と改善点	評価点	意見
I 保育の計画性	A	学年で保育計画をたて、準備をしっかりとって保育ができた。今後も子供の発達や興味に合った保育を計画実践していく。	A	先生達が園の教育方針や教育課程を理解し、学年で話し合いながら保育計画を立てているため、計画的な保育ができている。
II 保育の在り方・幼児への対応	A	子供ひとりひとりに応じた対応を心掛けることができた。子供が自分の力でやり遂げたことが自信へ繋がるような援助の仕方を職員間で共有したい。	A	子供達が過ごしやすく、安全に過ごせるような環境づくりに努めている先生が多いので、引き続き園全体で環境づくりに励んでほしい。
III 保育者としての能力や良識・適正	A	園内外の多様な研修等で勉強する機会が多かった先生と、もっと積極的に研修に参加したかったと反省している先生がいた。	A	今年度は多様な形で専門知識を身に付けた先生が多かった。今後も色々な媒体を使って自らの資質、能力を伸ばしていけると良い。
IV 保護者への対応	A	丁寧な保護者対応を心掛け、その日の子供の様子を伝えながらコミュニケーションをとっている。今後も、直接会う機会が少ない保護者ともしっかりとコミュニケーションを取っていくようにしていく。	A	どの先生も丁寧な保護者対応を心掛けている。今後も保護者との信頼関係を子供達と同様に築いていってほしい。
V 地域の自然や社会との関わり	B	どの先生も積極的に登降園時に地域の方へ挨拶ができた。年長の担任は小学校との連携を取っているが、その他の学年はなかなか関わる機会がないので保護者に卒園児の様子を聞く等、小学校について自ら情報収集していきたい。	B	未就園児の参加できる子育て支援事業の内容を変え、参加する人数も増え地域との関わりが深まった。小学校についても関心を持って自ら情報収集して欲しい。
VI 研修と研究	A	配慮が必要な子供に対する保育について療育支援の先生達に相談し、その内容を職員間で共有することが非常によい勉強になっている。	A	療育支援について多くの先生が知識を深めていて、それを保育に活かすことができている大変いいと思う。

4. 本年度の重点目標の総合的な評価結果

未就園児対象の子育て支援「ちゅーりっぷひろば」を園のホームページやSNSで告知したところ、受付開始してすぐに定員になるぐらい人気があり、子育て支援を必要とする方に支援の場を提供できた。

5. 今後取り組むべき課題

園内研修の一環として公開保育を開催し、他園の教員参加者とともに子供の姿や保育現場について語り合うことにより、外部からの視点を幼児教育の質の向上に活かす。